

シャルトリュー

猫種の特徴と日々のお世話



成猫の体重 (kg)	2.7-6.4
一般的な寿命 (年)	12-15
被毛	短く密なブルーグレーのダブルコート
原産地	フランス

品種の実用的な概要です。成猫の体重や寿命は幅のある参考値で、目標ではありません。品種や見た目だけで個体の健康や性格は判断できません。

品種に応じたケア

密な毛をやさしくとかし、下毛の換毛時には手入れを増やします。短い狩り遊びと安定した段差を用意し、食事量はがっしりした見た目や品種の体重範囲ではなく体型で調整します。

健康に関する情報

静かな猫でも不快感を抱えることがあります。ジャンプや毛づくろいの変化、原因不明の体重変化を記録して相談し、品種だけで診断せず病歴に合わせて検査を考えます。

品種情報は準備に役立ちますが、診断や治療指示ではありません。個別の計画は獣医師と相談してください。

猫に合わせた毎日のリズム

食事と水

年齢や健康状態に合った総合栄養食を選び、1日の量は獣医療チームと相談します。猫に合う回数に分け、新鮮な水を食事とは別の届きやすい場所に置きます。品種の体重範囲からカロリーや食事量は計算できません。

トイレと共有スペース

トイレは清潔で行きやすく、食事場所や騒がしい通路から離して設置します。目安として猫1匹につき1個に加えてもう1個を用意し、可能なら別々の場所に置きます。少なくとも毎日掃除し、休む・爪とぎ・隠れる・食べる場所を分けます。

遊びと環境づくり

日中に短い遊びを複数回行います。じゃらし、安全な探索遊びや知育フィーダーなどを使い、猫が捕まえたり休んだり離れたりできるようにします。安定した高所、隠れ場所、爪とぎを用意し、ひもや小さな部品は見守ります。

薬と引き継ぎ

この猫に処方された薬だけを記録します。薬名、処方量、投与経路、間隔、食事との関係、期間、投薬した人と時刻を残し、次の投薬前に記録を確認します。飲み忘れや反応があれば病院へ連絡し、自己判断で倍量にしたり治療を変えたりしません。

睡眠と静かな休息

猫は昼夜を通じて複数回休み、年齢・健康・住環境でリズムが異なります。暖かく静かで行きやすく、邪魔されずに隠れられる休息場所を用意します。睡眠や落ち着き方が急に変わったら獣医師に相談します。

ライフステージに合わせる

新生子猫・とても幼い子猫

出生後は獣医師または経験ある保護団体の計画に沿って、保温、授乳または安全な給餌、排泄、個体別の体重確認を行います。ぐったりする、冷たい、呼吸が苦しい、食べられない場合は早急に受診してください。成猫の予定でケアを遅らせてはいけません。

子猫：出生から1歳

子猫用総合栄養食、年齢に合った頻回の食事、安全な遊び、定期的な予防診療で成長を支えます。ワクチン、寄生虫予防、避妊去勢は病院の案内に従います。成長中は必要がすぐ変化します。

若い成猫：1〜6歳

計量した食事、毎日の遊び、清潔なトイレ、定期健診の習慣を整えます。食事や活動は品種で決めず、体型、外出環境、健康、猫の反応に合わせます。

成熟期：7〜10歳

定期健診を続け、食欲、飲水、体重、毛づくろい、動き、トイレ習慣の変化を記録します。健診間隔や検査を変えるべきか獣医師に確認します。

シニア：10歳超

食事、水、トイレ、お気に入りの休息場所へ行きやすくします。健診頻度を獣医師と相談し、食欲、快適さ、睡眠、動き、社会行動の小さな変化も記録します。新しい症状を年齢だけのせいにはしないでください。

高齢または虚弱な猫（年齢を問わず）

快適さ、暖かさ、必要な場所への移動のしやすさを優先し、必要なら毛づくろいやトイレを手伝います。痛み、夜間の覚醒、生活の質を獣医療チームと相談し、若い猫の活動目標を当てはめないでください。

受診が必要なサイン

口を開けた呼吸や呼吸困難、倒れる、けいれん、大きなけが、後ろ脚が急に動かない場合は救急受診してください。何度もいきむのに尿が少なく、または出ない場合は尿路閉塞の可能性があります。朝まで待たず、すぐに救急受診してください。

食べない、嘔吐を繰り返す、行動が大きく変わる、痛みが続く場合は早めに病院へ。子猫、高齢猫、持病がある猫はより迅速な判断が必要なことがあります。

ケア引き継ぎ記録

内容	時刻	担当者	メモ

出典・参考情報

[TICA — シャルトリュー](#)

[VCA Animal Hospitals](#)

[AAFP/ISFM environmental needs guidelines](#)

[Cornell Feline Health Center: urinary tract disease](#)

[AAHA/AAFP feline life-stage definitions](#)

[シャルトリュー](#)

このガイドは観察記録を整理するもので、診断や処方はいりません。個別の判断は獣医師の計画に従ってください。